

みなみがたのうちほぜんくみあい

南方農地保全組合（松本市）

・組織の活動面積	A= 11.33 ha
・組織の構成員数	約 63 人

組織形態	農地維持 ■	資源向上(共同) ■	資源向上(長寿命化) ■
取組開始年度	平成26年～	平成26年～	平成26年～

構成員	入山辺南方町会農家組合、南橋水路水利委員、土地改良区、南方果樹部会、南方そばの会
-----	--

組織の概要

入山辺地区は松本市の東方に位置し、西は市街地に東は美ヶ原高原を含み上田市に接しています。昭和56年に美ヶ原高原へと続くビーナスラインが開通し、美ヶ原高原への玄関口となっています。入山辺地区の中央には信濃川水系の支流である一級河川の薄川が美ヶ原を源として流れ、扇状地地形を形成しています。このため水はけがよく入山辺地区では古くからブドウ栽培が盛んで、特にデラウェアは「山辺ブドウ」として全国でも有名なブランドとなっています。また、薄川より分水したいくつもの堰(用水路)が設けられており、扇状地を有効活用すべく稲作も盛んです。南方地区は入山辺地区の中でも市街地側に位置し、また、薄川の南側で北向き斜面に地位する地域です。

南橋水路は南方地域の東上流より分水した水路で、この水路を利用した稲作も盛んです。また、稲作と併せブドウ栽培、野菜栽培を行っている農家もありますが、近年では鹿、猪等による鳥獣害が問題となり、平成22年に南方地区の南側斜面に住民の共同作業により防護網を設置したことから、農作物への被害も減少しています。

南方農地保全組合は南方地区の農家組合の役員が主となり平成26年度に発足しました。従来より住民が実施してきた農道の一斉草刈り、水路の堰浚いや鳥獣害防護柵の管理、農家を実施していた畦畔や農道の草刈り、休耕田を活用したそばの会によるそば栽培などを南方農地保全組合の活動と位置づけ、住民一体となった活動を実施しています。

**** 地域一体となった農地保全活動 ****

薄川側道の一斉草刈り



鳥獣害防護網の点検補修作業



南橋水路の堰浚い作業



南方の歴史研究



平成26年度 歴史研究会により南方地区の歴史をまとめた冊子を発行し、発表会を報告会を行いました。

南方から見た北アルプス



正面には常念岳がその左には槍ヶ岳が展望できます。

そばの会による休耕田の有効



JA指導員によるぶどうの技術指導

